



紀平真理子のオランダ通信

第37回

オランダの農場 ボランティア事情

写真はいずれもTuinderij De Stroom農場にて

5月に Hemmen というヘルダーランド州にある人口1,400人の農村を訪れた。訪問した Tuinderij De Stroom 農場は Angelien 氏、Weldmoed 氏、Linde 氏(現在産休中)の女性3人が他の農場で3年間のトレーニングを受けた後、10年前に始めた有機栽培農場だ。また、女性の社会進出が進んでいるオランダでも100ha以上の圃場を保有する生産者のうち2.4%、20ha以下の圃場を保有する生産者のうち7.5%が女性経営(2007/Eurostat)で、また女性新規就農者は10%程度にとどまるため女性3人で経営する農場は珍しい。

活動形態も動機も多様

現在、同農場では3人に加えて8人のボランティアと1人のインターンシップ生で作業を分担している。ボランティアは週に1回から毎朝来る人までさまざま。Weldmoed 氏は「いろんな理由で働けない人が気分を変え、人と交流するためにボランティアに来ているケースも多い」と話す。訪問日にボランティアに来ていた男性に話を聞くと「25年間勤務していた会社をクビになり、精神的に参ってしまった。インターネットでこのボランティアを見つけ、農業の楽しさと難しさを感じ、いまは農業高等専門学校へ通い、他の農場で働きながらここで勉強しているよ。将来はヤギ農



Angelien氏、Weldmoed氏と訪問日のボランティアの方々

プロフィール

1985年、愛知県名古屋生まれ。南山大学外国語学部スペイン語学専攻卒業後、コンタクトレンズメーカーで国内・海外業務に携わる。夫の駐在帯同で2011年12月からオランダのアムステルダム市に在住。父の家庭菜園を見て農業に興味を持っていたこともあり、すべてに実利的で交渉上手なオランダ人によるオランダ式農業に魅了されたという。

場を始めようと思っている」。同農場はボランティア求人プラットフォームや農業大学のネットワークを活用してボランティアを募集している。

国民の4割以上がボランティアに参加

08年、オランダでは530万人(人口の42%)がボランティアを行なったことからわかるように、ボランティア活動が一般に浸透している。キリスト教の精神があることに加え、国からの促進サポートも大きな役割を果たしている。たとえば、Tijdelijke Stimuleringsregeling Vrijwilligerswerk2001-2005 というプログラムでは健康・福祉・スポーツ省から50%の補助金を受け、市町村がボランティアのスキルアップ、新規ボランティアの獲得、管理業務のサポートを行ない、市民参加を促進した。

筆者もオランダに住み始めたばかりのころ、農場でボランティアとして収穫や圃場整備を手伝う代わりに、基礎的な栽培知識や土壌に関する講習に参加していた。報酬はないものの、計画されたスケジュールで知識とスキルを付与されており、満足度が高かったことを覚えている。「知識やスキルを得て(与えて)実践で活用」という感覚を雇用者も労働者も持ち続けることがボランティアを活用するうえでは大切だ。



農機類はすべて中古オークションでかなり安く購入している(補助金類はなし)



週によって内容が異なるベジタブルバッグを顧客への直接販売と小売店へ納品している